

- Contents -



やっぱりこっち...



1 活活算数

塾長算数講座



2 活活寄席・思考力検定

第4回活活寄席・思考力

検定模試のお知らせ



3 活塾草紙

茗荷宿

ようやく秋の空気に代わりました。9月29日現在で、算数教室3名、落語教室1名の子どもたちとみっちり学習しています。無料体験いつでも受け付けています。詳しくはホームページ<https://katsujuku.net>をご覧ください。

いきいき 塾長の活活算数①

てん、てん、てん

今私は、公立小学校で緊急対応非常勤講師として働いています。緊急対応といっても、その学校に何かあるわけではなく、教師不足を補うパートタイマーとして、算数の授業を中心に年間九七五時間の授業契約をしています。3年生の学級で算数の授業をしていたときのことでした。ある子のノートを見ると、彼は

22 ÷ 3 = 7 : : 1
と書いていました。「...」

これ、読めますか？
「読めないはずないじゃないの」と思われたあなた、もしかしてあなたは島根県出身の昭和世代ではありませんか？

このざっくりプロフィールの根拠は、教科書にあります。私が大学生のころ、関東出身

の同級生は、「...を「あまり」と読めませんでした。なぜなら、彼の教科書は啓林館ではなかったからです。

どこの教科書を使うかという教科書採択が行われるようになってから長らく島根県は啓林館一色でした。今は啓林館教科書も22 ÷ 3 = 7あまり1と表記が変わりましたが、県内には、22 ÷ 3 = 7 : : 1と習った大人が大勢います。3年生の彼も啓林館教科書でしっかり学んだ大人から学んだんですね。

啓林館教科書には、暗算重視、応用力重視で抽象度ちよつと高めという特徴があります。松江算数活塾では、6社ある教科書のいいところりをして授業に生かしています。

(塾長 川上宜久)



さて、果たして宿屋夫婦の思惑通りにいったのか、これはこの話の落ちにあたり、あざやかなことこの上ないのでここに記すは野暮というものの、気になる方は「にこにこ寄席」に行かれるなり本で調べるなりしていただければと思います。この話はめつたに高座にかかりません。私も高座では一度も聞いたことがありません。小学生のころ、テレビで一度見たきりです。もう十年以上前になります。落語絵本シリーズに及んだので、「次の作品は？」と尋ねると、「茗荷宿にしようかと思っています。」と言われました。私がつきに落ちを語りますと川端さんは目を丸くして、「この話を知っている人に初めて会いました。」とおっしゃいました。高座で聞く機会などまずないし、自分はテレビで一度見たきりだ、とも。川端さんと私は同世代です。話を聞くと、どうも同じ番組を見て、同じように落ちの見事に魅了され、ずっと記憶にとどめたいということのようでした。消えたところで誰も何も思わない他愛のないお話かもしれません。しかし、それを何十年も温め続け、伝える値打ちのある話として絵本に残した川端さんの思いを私はとても尊いと思います。そして「にこにこ寄席」という高座にかけて、お客様に伝え続けている高尾小の子どもたちもまた、文化を支えるとても尊い活動をしていると思うのです。

ちなみに、川端誠さんの『みようがやど』は、シリーズ十五作目として二〇一二年クレヨンハウスから出版されています。

文 宮森健次



第四回活活寄席

里みちこ詩展

いのちの四季

11月18日～20日

里みちこ詩展
いのちの四季
2023/11/18～20
鹿島のギャラリーあいえんきえん



9:00～18:00
松江市鹿島町佐陀本郷580
入場無料
里みちこ詩語り 18～20日11:00～14:00～
主催：松江算数活動 0852-67-8005

次回活活寄席は、詩人里みちこさんの詩の展示と詩語りを3日間にわたって開催します。会場は、鹿島のギャラリーあいえんきえん、です。古民家をリフォームしたすてきなギャラリーです。

里さんは、これまで全国各地で個展を開催していらつしやいますが、ご自身が飯南町生まれということもあって、ことに島根県は馴染み深く、奥出雲町立三沢小学校58才での社会人入学、伝えきれなかった思いを投函する飯南町の郵便ポスト、など多くの共感を呼ぶ活動の場と

もなっています。会う人をことばや声で包み込まずにはおかない里ワールドをぜひご体感ください。当日は、あいえんきえんの喫茶、仁多米や野菜、ユニーク文具の出店もあります。お子様連れも大歓迎です。

なお、19日(日) 10:30～11:30は他の催しとも重なっているため、駐車場が足りなくなる場合がございます。考えられます。その際は、会場から歩いて5分、鹿島文化ホールにお止めください。

思考力検定模試 90

しまね数リンピックの受験に備え、模擬試験を実施します。数リンピックと同じ90分の内容です。小学生が一時間半集中して問題に取り組むことはまずありません。数リンピックを受検する人にとっては、雰囲気をつかむよい機会になります。受検しない人でも、力試しにチャレンジできます。10月22日午後1時よりテクノアークしまねにて。お申し込み、お問い合わせは、ホームページ、メールまたはお電話で。なお思考力検定模試45は11月5日です。



ホームページ刷新しました

新しいホームページができました。松江算数活塾で検索するか、<https://katsujuku.net>と入力してください。「まわりみち」のコンテンツも増量して掲載しています。

活塾草紙 その参

みようがやど



「みようがを食べるともの忘れする」今では、そんな言いならわしを知っている子どももいないかもしれませんが、私が子どものころは、みようがが食卓に登場すると合言葉のように母親が言っていました。あの独特な香りがどうも苦手で、もの忘れする上にこんな臭い食べ物をなぜ食べるのかと不思議でしやうがありませんでした。今では、そうめんでも酢の物でも刻んだみようがが乗っているとそれだけで食欲も気分も上がりますが。

お釈迦様の弟子で、もの忘れ名人の槃特(はんどく)さんがこのいわれの由来です。自分の名前すら忘れるので名荷(みようが)つまり名札をつけさせてもそのことさえ忘れるという徹底ぶり。槃特さんが亡くなるとお墓の周りには草がたくさん生えてきました。故人にちなんで「茗荷(みようが)」と名付けられ、先のいわれが誕生したというわけなんです。植物にとつては明らかに不当な言いがかりですが、あの香りとエピソードがしっくりきたものか、そこはかとないユーモアを湛えて今に伝わっています。

落語の「茗荷宿」は、このいわれを使ったお話です。宿屋の夫婦が一計を案じ、特産の茗荷を様々に料理して客に出し、忘れ物をせしめようとしています。高尾小学校の女流落語家青葉亭ふらわーさんとそれを受け継いだ夕焼けさんがこの話を得意にっていて、「茗荷ごはんは茗荷の酢の物、茗荷汁に茗荷の天ぷら…」と並べていき、はては「茗荷プリンに茗荷ジェラート」と自分好みに創作して笑いを誘います。

(裏面に続く)